

Fujitsu Software

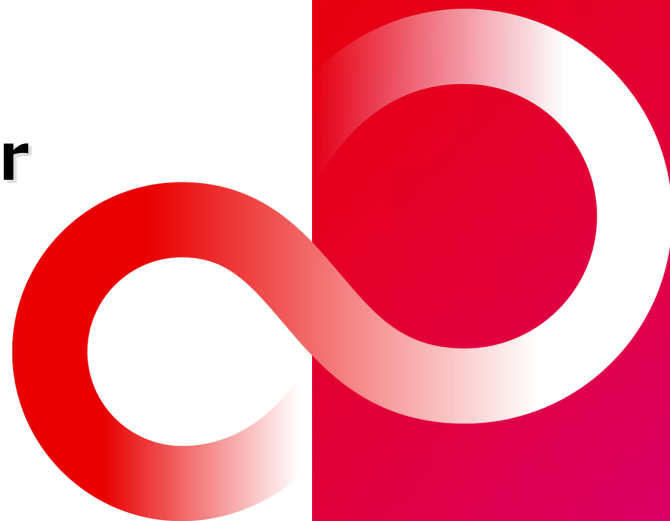
システムウォーカー セントリック マネージャー

Systemwalker Centric Manager

V17.0 ご紹介

2024年4月

富士通株式会社

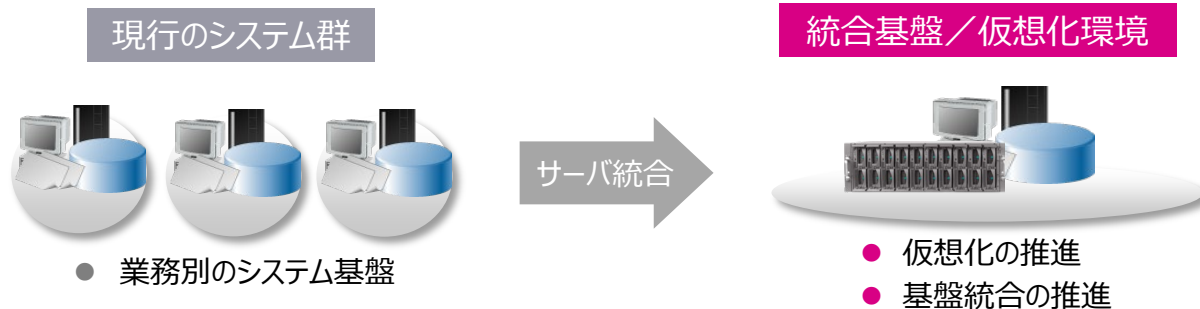


- 仮想化・サーバ統合で求められる統合監視
- Systemwalker Centric Managerの特長
- サポートの優位性
- システム構成

仮想化・サーバ統合で求められる統合監視

■ コスト削減を背景に仮想化によるサーバ統合が進展

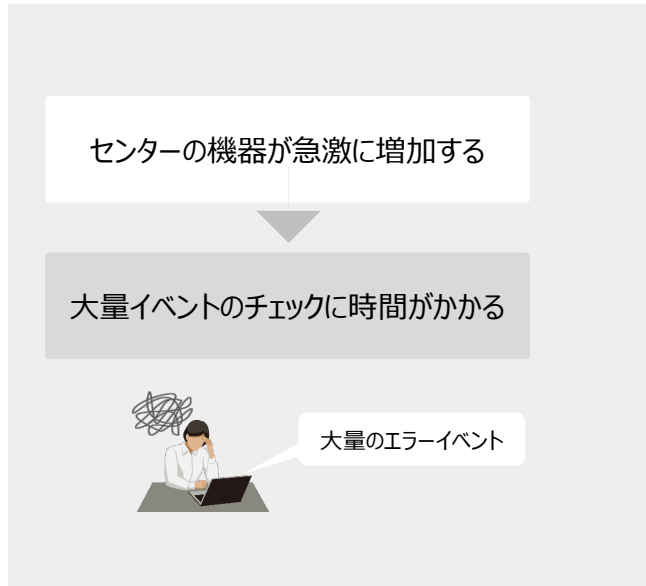
- コスト削減の観点から、企業全体のICT資源をセンターに集約し、仮想化によるシステム基盤統合への動きが加速



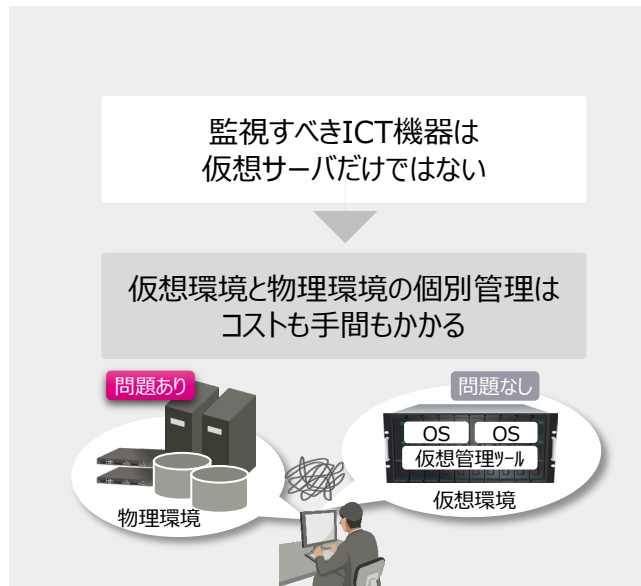
■ 仮想化・サーバ統合によるコスト要因

- 数の要因
- 機器(サーバ、PC、ネットワーク機器)の急激な増加
- 種類の要因
- 物理サーバ、仮想サーバ、ネットワーク機器の混在

■ 数の要因

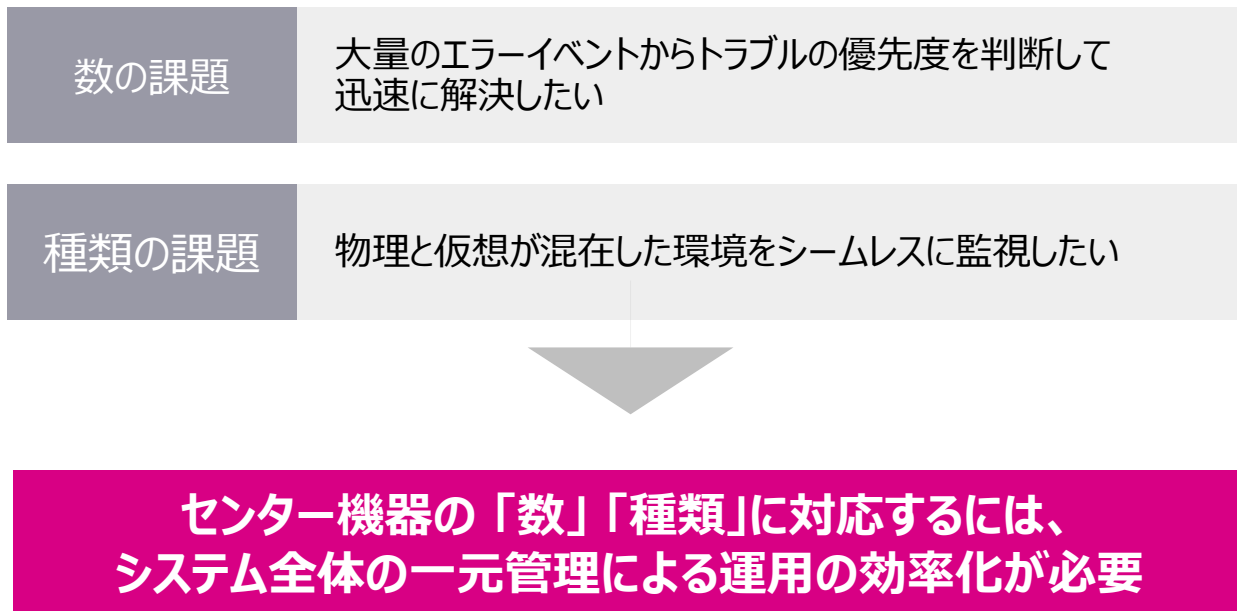


■ 種類の要因



センターのICTインフラが大規模・複雑化することは、管理工数のコスト増に繋がる

■ 仮想化・サーバ統合により発生した運用の課題



■ 変化する仮想化・サーバ統合環境でのシステム全体の見える化を実現

数の課題
を解決

- トラブルの状況や傾向が見える化
- 障害箇所、影響範囲が見える化
- 少ないオペレーションでトラブル原因を特定
- 大量イベントから重要イベントをフィルタリング

種類の課題
を解決

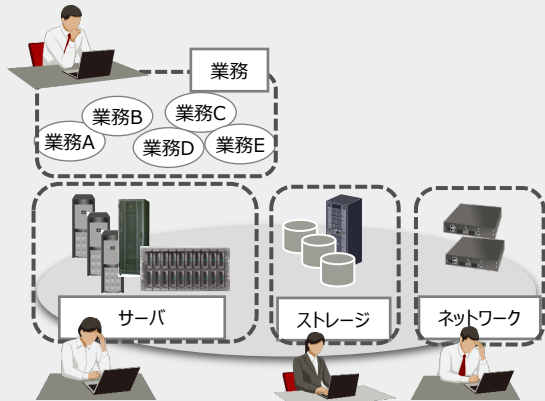
- 物理サーバ、仮想サーバ、ネットワーク、ストレージ、業務の関係と稼働状況が見える化

システム全体の一元監視

業務・サーバ・ストレージ・ネットワーク を別々に監視

監視対象ごとの担当者が別々の監視画面で管理

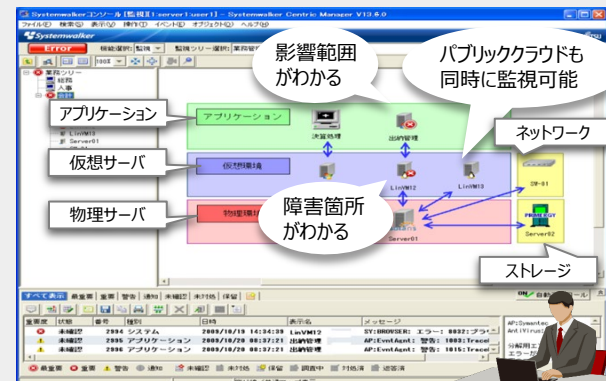
- システム全体の状況が見えない
- 障害箇所や影響範囲がわからない



システム全体をまとめて監視

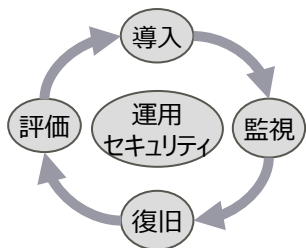
物理サーバ/仮想サーバ・ネットワーク・ストレージ・
業務アプリケーションを一つの監視画面で管理

- システムの全体の稼働状況を一面で確認
- 障害箇所、影響範囲が一目でわかる



障害箇所や影響範囲が一目でわかり迅速なトラブル対応ができる

Systemwalker Centric Managerの特長



Global Enterprise Edition

Enterprise Edition

Standard Edition

導入

- 簡単導入/セットアップ
- ソフト資源の配付
- ソフトウェア修正管理

復旧

- リモート操作
- リモートコマンド
- 電源投入/切断

監視②

- クラスタシステムの監視
- 大規模多階層の監視
- 冗長構成による高信頼化

監視③

- メインフレームの監視

監視①

- ハイブリッド監視 **New!**
- 稼働状況の監視
- イベントの監視
- 性能監視
- 自動通知

評価

- 運用の評価

運用セキュリティ①

- サーバアクセス制御
- ログの記録
- ログの収集・保管
- ログの点検 (レポート)

運用セキュリティ②

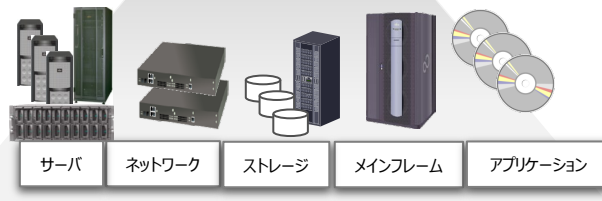
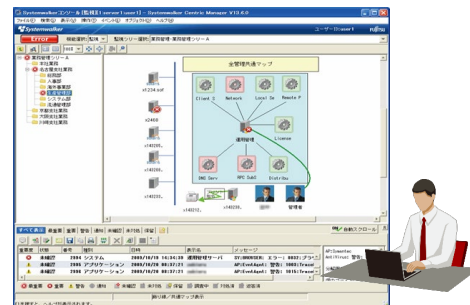
- コンソール操作制御

New!

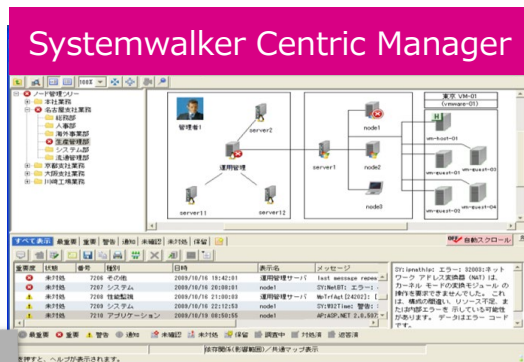
V17の新機能です。
機能の詳細は「V17 新機能ご紹介」で説明しています。

■ さまざまな環境のシステムを一つのコンソールで監視できる

- すべてのシステムを1つの画面で監視
 - Web GUIにより、サーバ、ネットワーク、ストレージ、アプリケーションの稼働状況を一画面で監視
 - 物理サーバと仮想サーバを関連づけて監視
 - 管理者の役割に応じた監視メニュー
 - メインフレームも監視
 - 他社運用管理製品と連携して統合監視
(他社連携アダプタを無償提供)
 - データセンターの統合監視と、テナント/業務システムの個別監視を両立



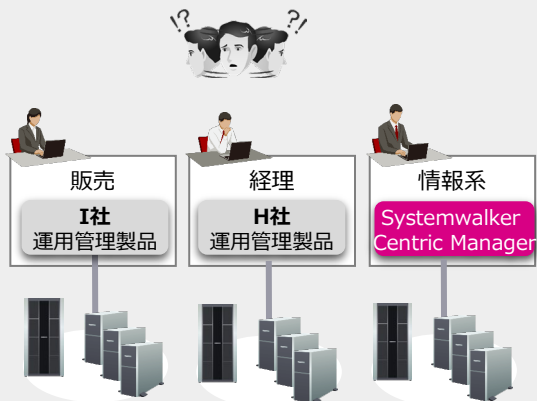
- 一画面ですべての障害が確認できる



■ 他社製品が管理している障害メッセージを一画面で監視できる

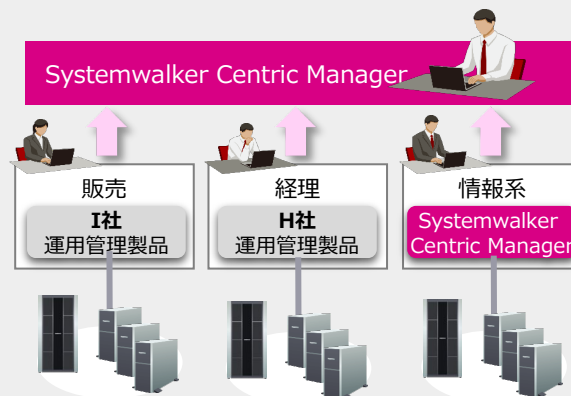
システムごとに運用管理製品が異なり、
統合できない

- さまざまなベンダーの運用管理製品を使用しているため統合できない

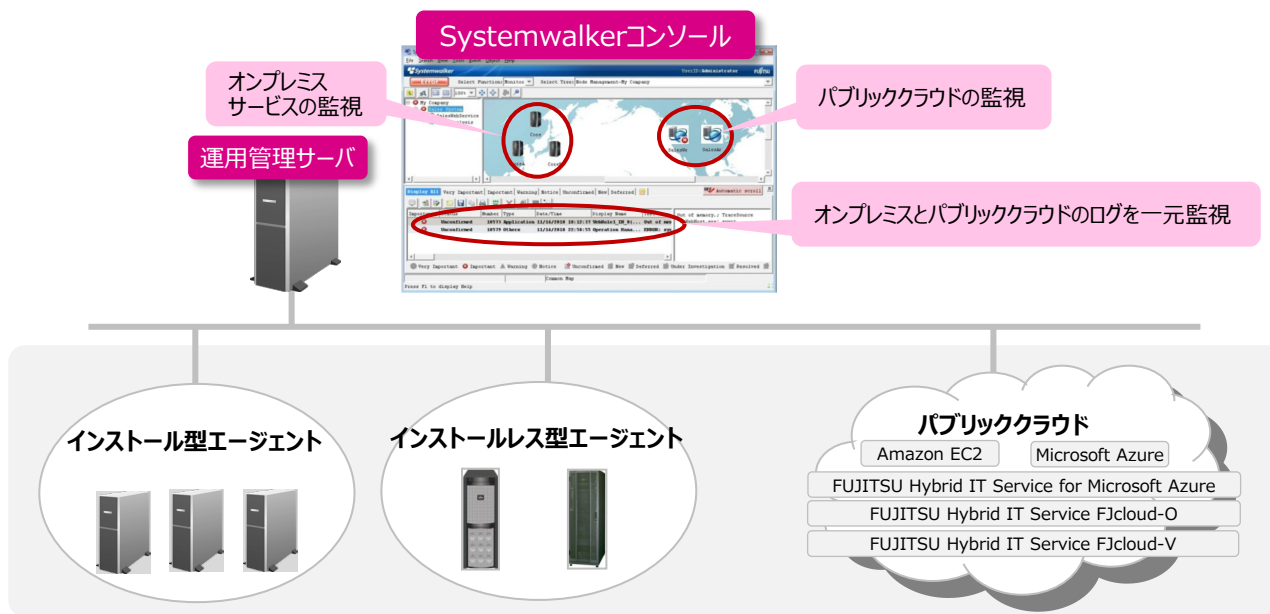


マルチベンダーの監視を
統合して運用を統一

- 既存環境にSystemwalker Centric Managerを追加
- さまざまなベンダーの運用管理製品と連携して監視



■ オンプレミスもパブリッククラウドも一つのコンソールで集中監視できる



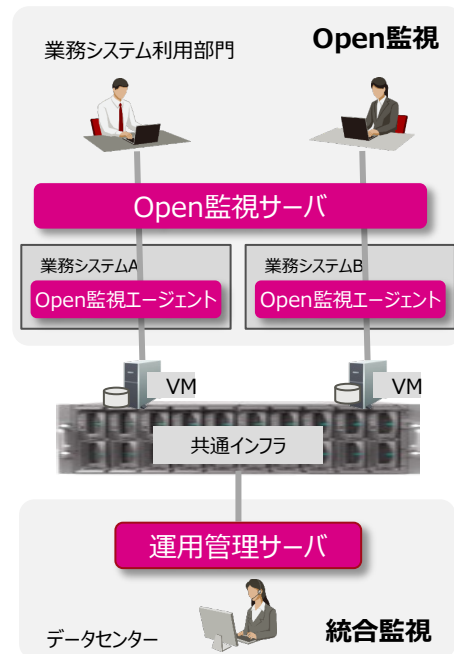
※ IPv6通信プロトコルをサポートしています。

業務システムの個別監視（Open監視）

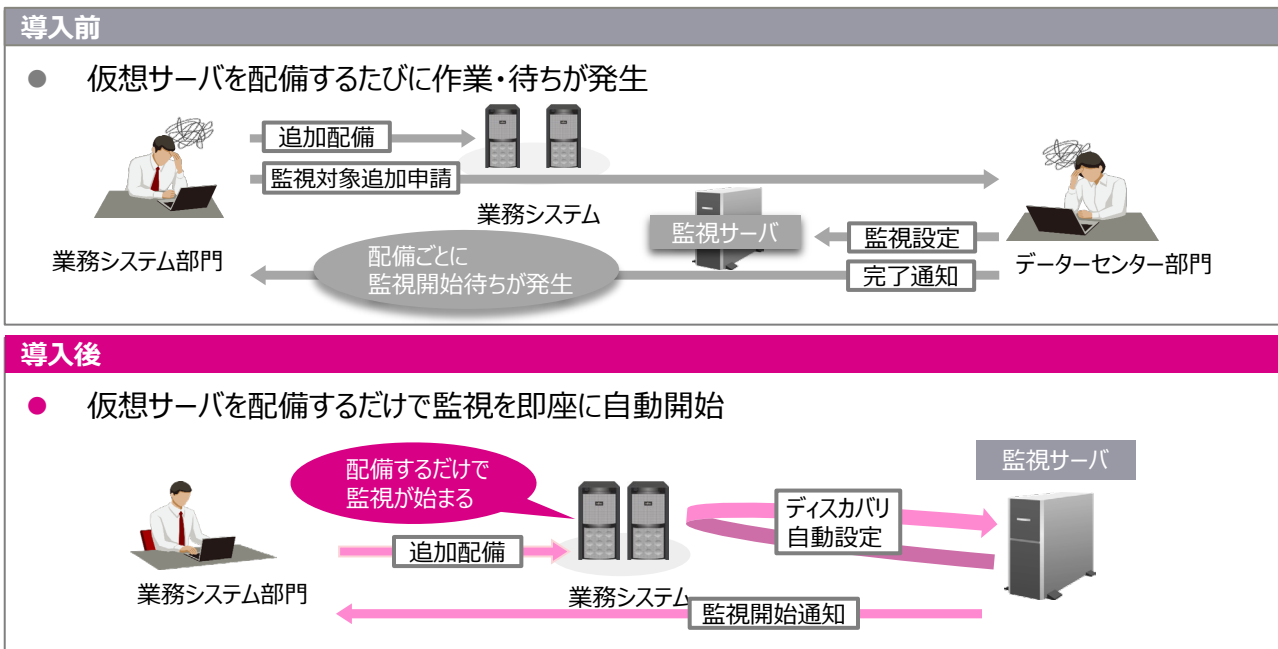
ご参考

FUJITSU

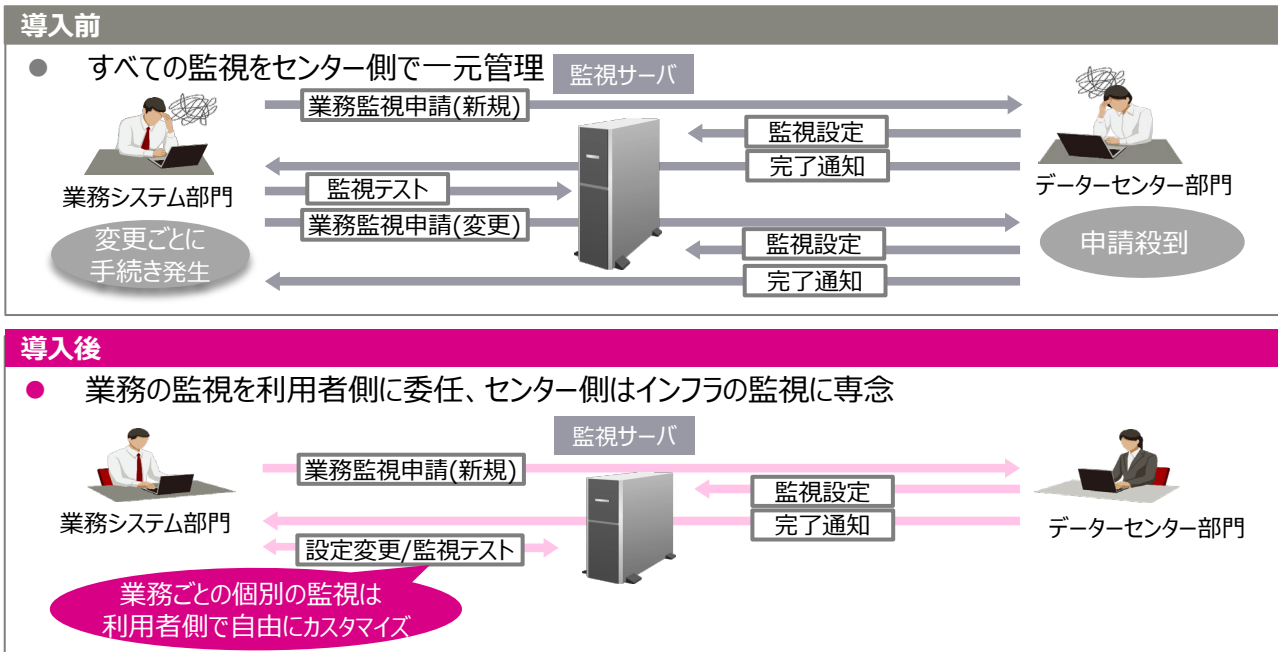
- システム利用部門とシステム管理部門とで監視を分担
- 統合監視と業務システムの個別監視機能を提供
 - データセンターから貸し出された仮想マシンを、業務システム利用部門で監視
 - 監視設定・監視業務を業務システムに合わせてカスタマイズ可能
 - ユーザーと監視対象を関連付けるマルチテナント監視によりオペレーターの作業を効率化
 - OSS(※)と共通のオープンなAPI、入出力ファイルのインターフェースを提供
※)対応しているOSSはZabbixです
- 導入を簡易化
 - オール・イン・ワンの製品インストーラとスマートセットアップで簡単に導入
 - 独自テンプレートの提供により、業務部門がすぐに監視が行える環境の準備が可能
 - 仮想プロビジョニング後に監視を即開始可能
- Open監視機能と統合監視機能の連携
 - Open監視対象の各業務システムから発行されたイベントを、統合監視の監視画面でまとめて監視することで、オペレーターの作業を効率化



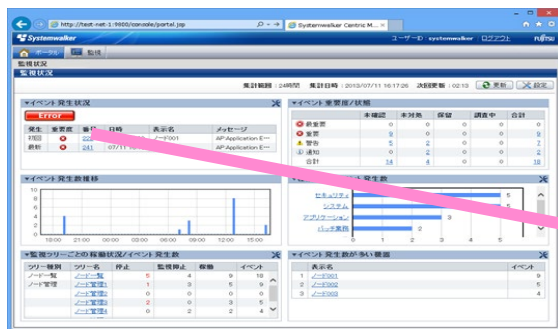
■ 配備された仮想サーバの監視を即座に自動開始できる



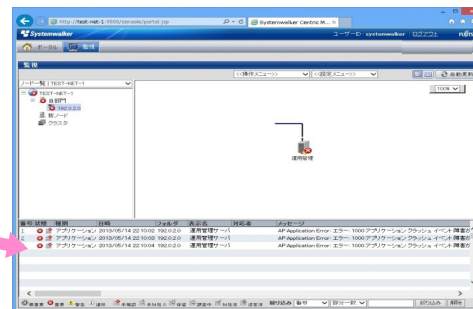
■ システム利用者が業務システムを個別に監視できる



- トラブルの優先度を判断し原因を迅速に特定できる
- Webコンソールでイベント状況を把握
 - イベントの発生状況(発生数、期間での発生傾向や機種別の発生傾向など)を一目で把握
 - 管理者の役割、担当範囲に応じて表示項目をカスタマイズ可能
- 少ない手番でエラー内容を把握
 - 類似イベントを集約した通知や、イベントの組み合わせを判断した原因メッセージの通知により、現象の把握や原因の特定が容易
 - 1クリックでエラー情報を絞り込み、必要な情報を確認

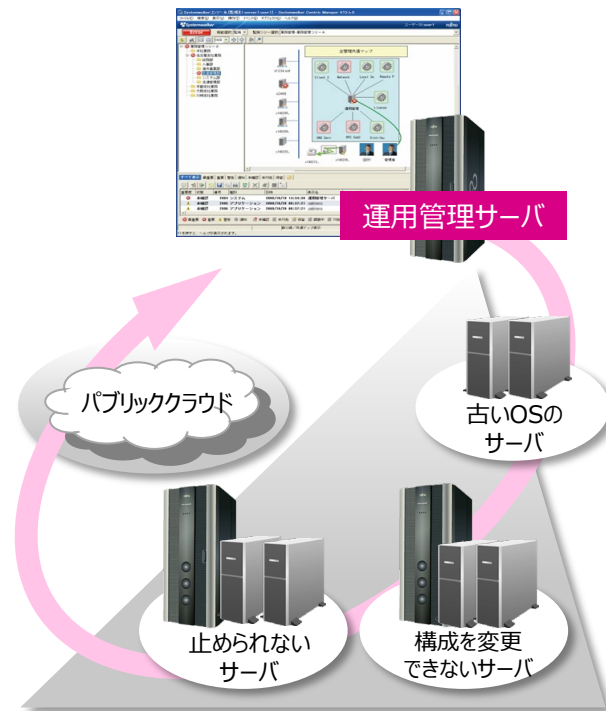


エラー情報の絞り込み



■ サーバに影響を与えずに監視できる

- 監視対象を選ばない統合監視
 - 監視対象へのSystemwalker Centric Managerのインストールが不要
 - Systemwalker Centric Managerをインストールできないサーバも監視対象にできる
(24H稼働サーバ、構成を変更できないサーバ、古いOSのサーバなど)
 - 異なるOSが混在するクロスプラットフォーム環境にも対応
 - Systemwalker Centric Managerがインストールされているサーバとインストールされていないサーバが混在する構成にも対応
 - FUJITSU Hybrid IT Service FJcloud-V、Amazon EC2、FUJITSU Hybrid IT Service for Microsoft Azureなどのパブリッククラウドも、インストールレス方式で監視することができます。



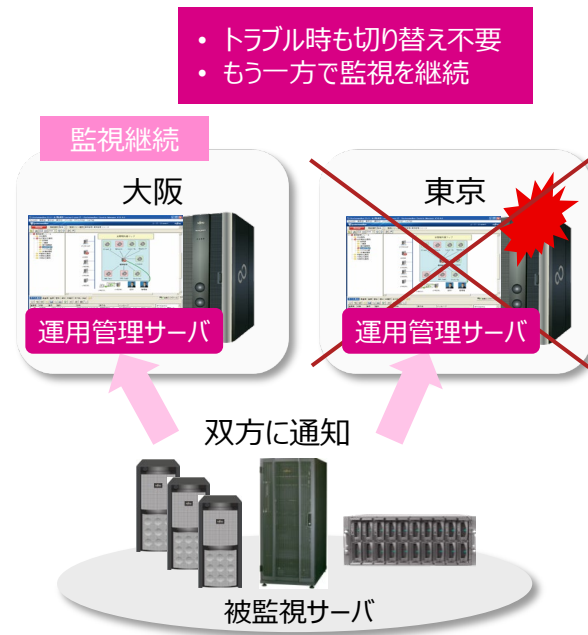
■ 24H止まらない監視で、障害イベントを確実に検出できる

● 故障しても監視を止めない

- 運用管理サーバを二重化してトラブル時も監視を止めずに継続 (最大四重化構成まで可能)
- Systemwalker自身の稼働状況をセルフチェック
- 通信トラブルなどで通知されないイベントは復旧後に自動再送

● 運用を止めずにバックアップ

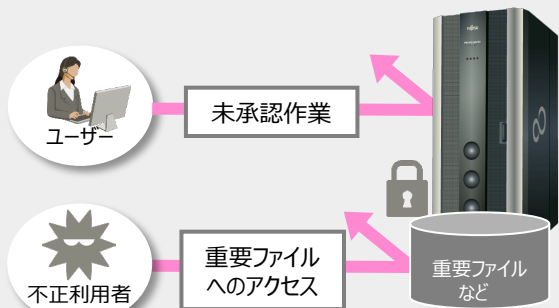
- 運用管理サーバを稼働させたまま、監視環境をバックアップできる



■ 不正な操作や操作ミスによるトラブルを防止できる

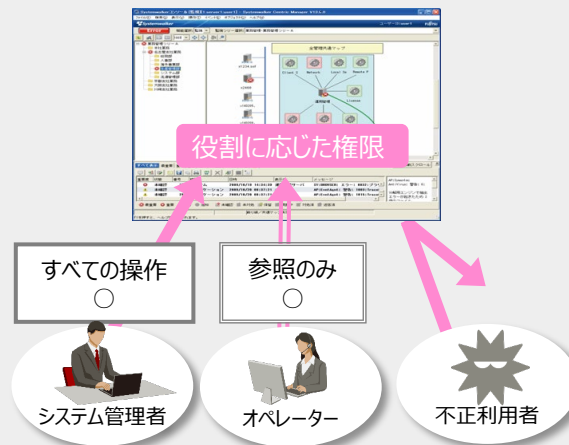
サーバのアクセス制御

- ユーザーごとに重要ファイルやプログラムへのアクセスを制限
- ユーザーごとにログインを制限



運用管理コンソールのアクセス制御

- 管理者の役割に応じて、運用管理コンソールで操作できる権限を付与



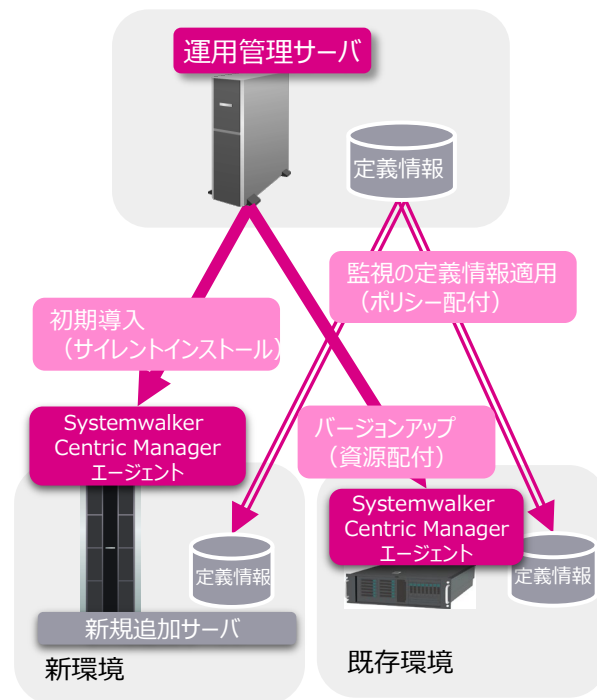
■ 導入や監視定義の設定を効率化できる

● 簡単導入

- 初期導入はエージェントプログラムと環境定義をサイレントインストール
- バージョンアップは資源配付機能で自動適用

● 監視定義を一括管理、自動適用

- 監視の定義情報(ポリシー)を運用管理サーバで一元管理
- ポリシー配付機能で、運用管理サーバから監視対象にポリシーを一括適用
- 定義内容はGUI画面で簡単確認
- お客様／提供サービス(テナント)ごとの管理者に監視ポリシーの設定権限を与え、監視ポリシーを設定可能(マルチテナント監視)

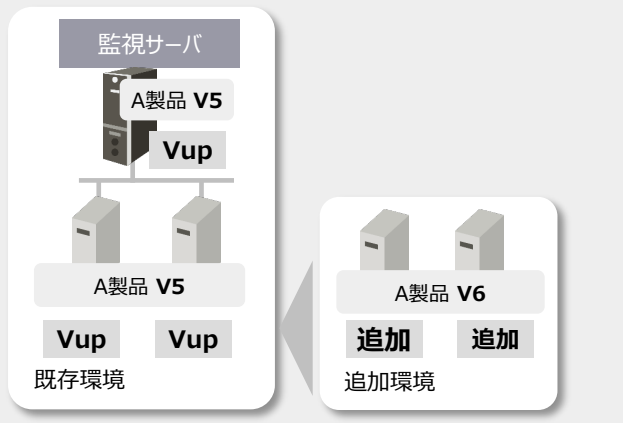


サポートの優位性

- システム拡張に伴う、全製品のバージョンアップは不要
サーバ追加や段階的なシステム拡張も安心

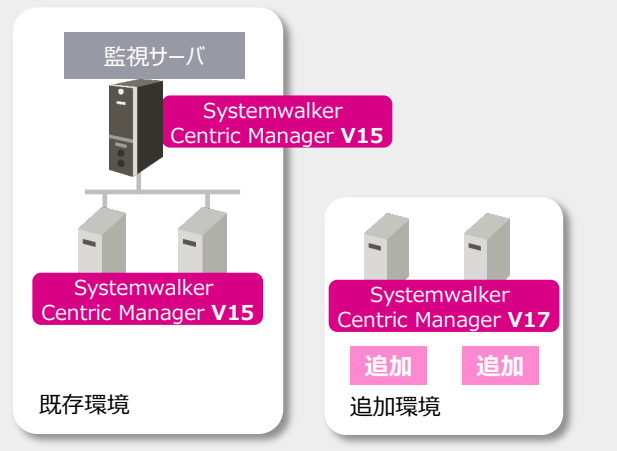
他社の場合

- 新バージョンの製品導入には、既存製品のバージョンアップが必要
- 製品ライセンスの他に、移行のためのSE費用が発生



Systemwalker Centric Managerの場合

- 異なったバージョンが混在しても利用可能
- 監視サーバと監視対象サーバのバージョンが異なる場合、古いバージョンの機能範囲で運用可能



お客様のニーズ

サポートをたらい回しにされたくない、
メーカーで原因切り分けをしてほしい



SupportDeskの対応

開発ベンダーによる
ワンストップサポート^(*1)

トラブルは早く解決したい



専門技術者による対応・
製品開発者との密な連携

24時間・いざという時でも問合せしたい



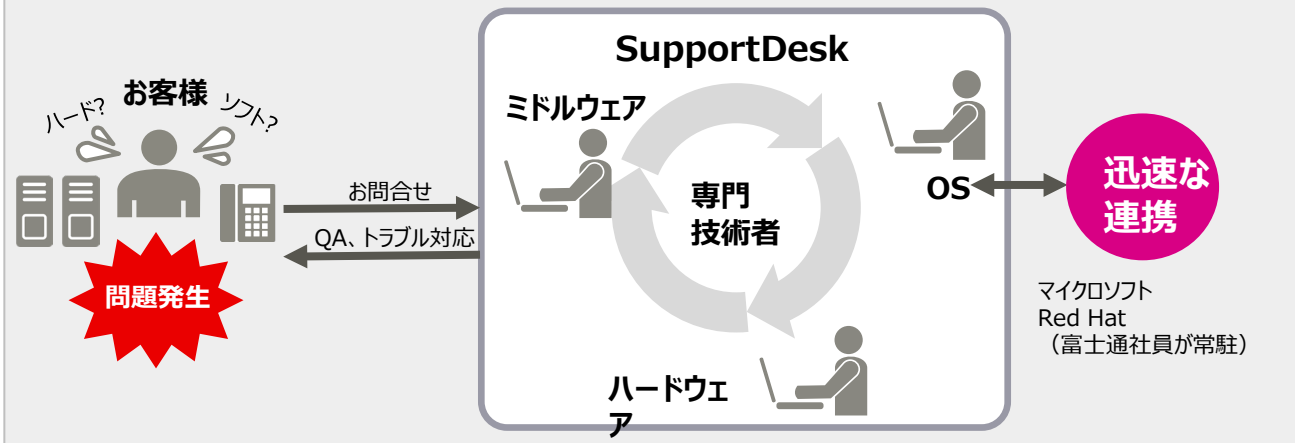
24時間体制・災害時における
サポート業務継続の体制

(*1) ご利用中の各製品についてサポート契約をしていただくことで、ワンストップサポートを受けられます。

■ ミッションクリティカルなシステムのサポート実績も豊富

安心の運用を支援するワンストップサポートを提供

- 年間約 10 万件の OS やミドルウェアに対するお問合せに対応
- 10分以内のコールバック率 99%(*1)
- 7日以内のトラブル解決率 89%(*1)



(*1) Systemwalker2010年度実績値

■ 富士通ソフトウェアトレーニング

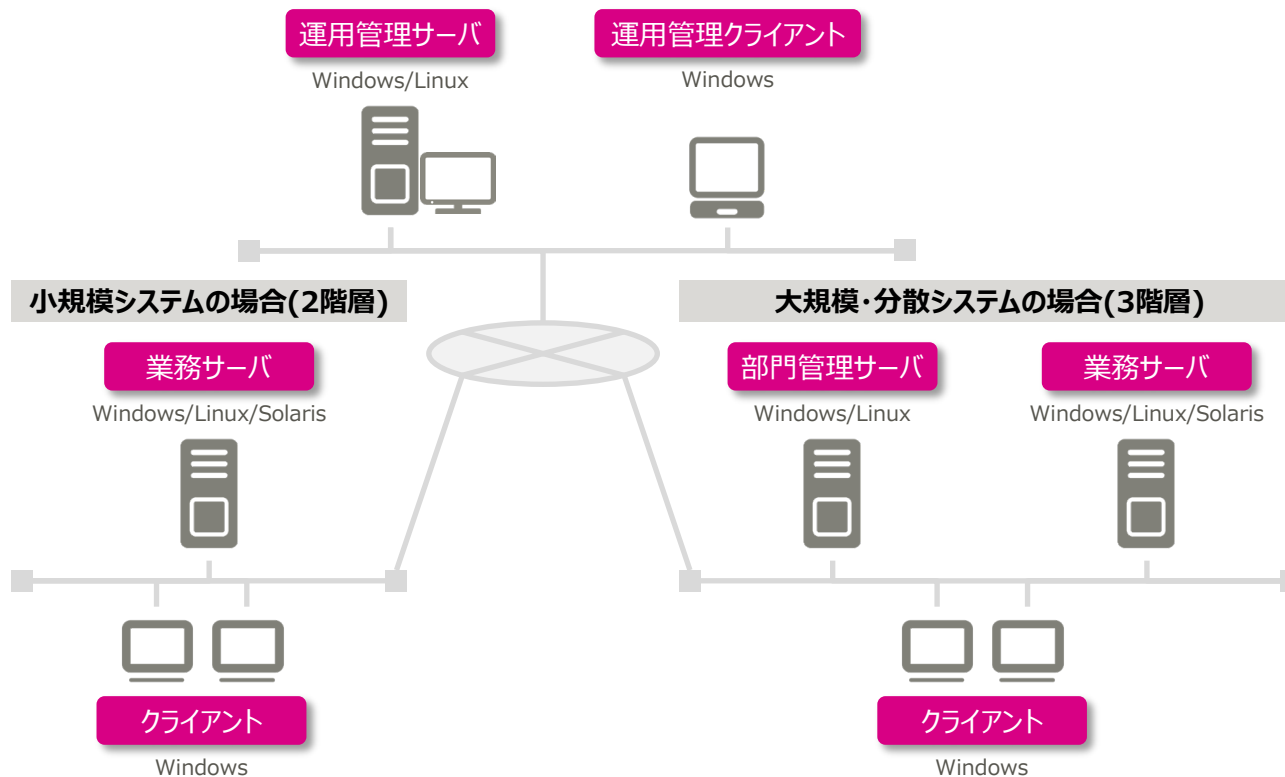
- <https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/training/>

■ 富士通ソフトウェアマスター

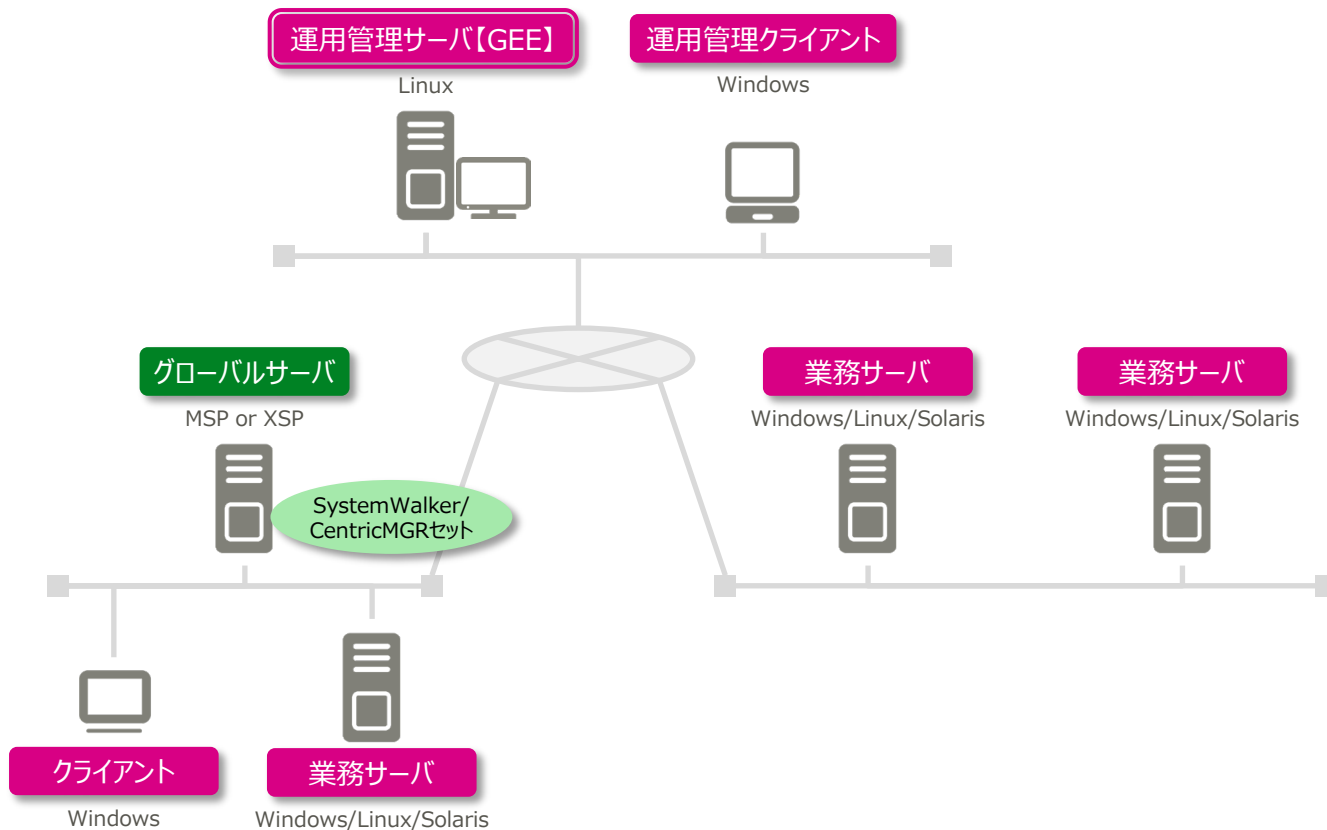
- <https://www.fujitsu.com/jp/products/software/resources/swmaster/>

システム構成

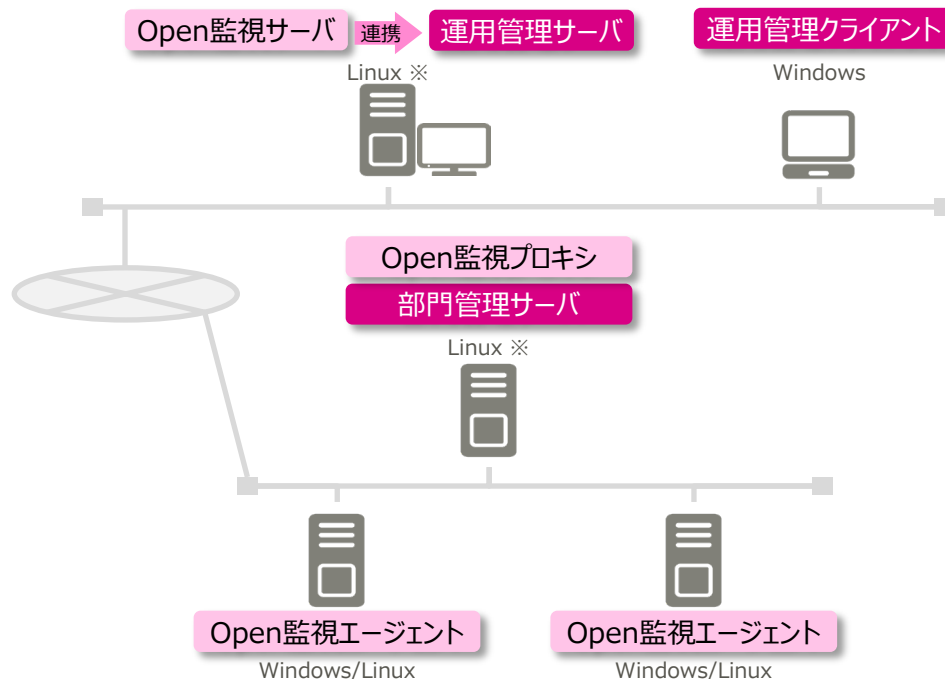
基本のシステム構成 (Standard Edition/Enterprise Edition)



基本のシステム構成 (Global Enterprise Edition)



Open監視のシステム構成 (統合監視と連携する場合)



※ Open監視サーバと Open監視プロキシサーバは、Linuxのみ動作可能です。

● 運用管理サーバがLinuxの場合、Open監視サーバは 運用管理サーバと同居が可能です。

● 部門管理サーバがLinuxの場合、Open監視プロキシは 部門管理サーバと同居が可能です。

● Windows上で運用されている運用管理サーバと連携する場合は、運用管理サーバとは別のLinux上に、Open監視サーバと部門管理サーバをインストールします。

- Amazon Web Services、Amazon Elastic Compute Cloud、Amazon CloudWatchは、米国その他の諸国における、Amazon.com, Inc.またはその関連会社の商標です。
- Linux(R)は米国およびその他の国におけるLinus Torvaldsの登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Vista、Windows Server、Azureまたはその他のマイクロソフト製品の名称および製品名は、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、米国およびその他の国において登録されたRed Hat, Inc.の商標です。
- Zabbixはラトビア共和国にあるZabbix LLCの商標です。
- そのほか、本マニュアルに記載されている会社名および製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

